

NAGOYA UNIVERSITY

NAGOYA UNIVERSITY

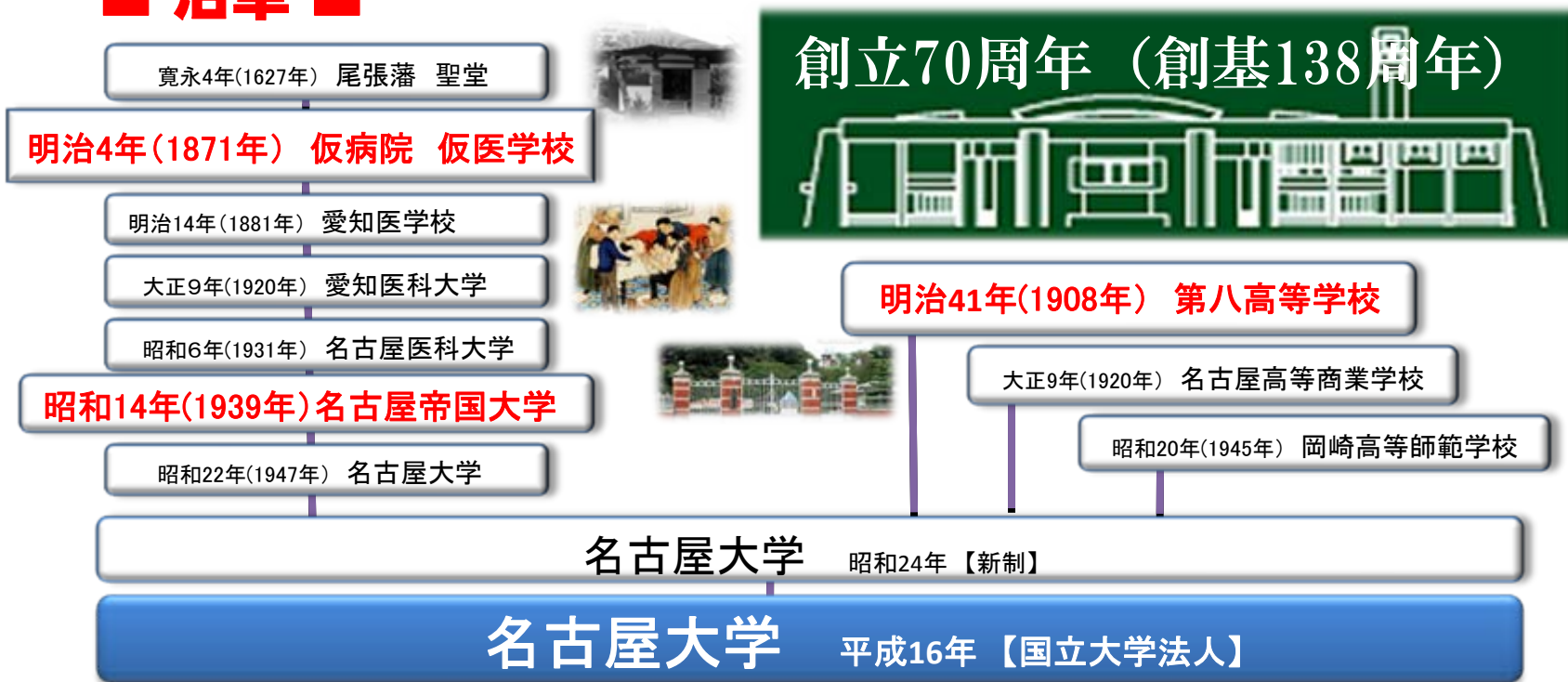


実例紹介：国際的視点の導入

- 1) 大学の概要紹介と国際化への動き
- 2) インターナショナルアドバイザーボード

名古屋大学 評価担当副総長
松下裕秀

■ 沿革 ■



■ 規模の概要 ■

➤ 学部 : 9	研究科 : 13	附置研究所 : 3	全国共同利用施設 : 2
➤ 教員数	1,751名	事務・技術職員数	1,453名
➤ 学部学生	9,640名	大学院生	6,049名
➤ 留学生数	約 1300名	土地面積	約 325万㎡
➤ 建物面積	約 75万㎡	建物蔵書数	約 300万冊

名古屋大学 学術憲章 (抄)

自由闊達な学風の下, 人間と社会と自然に関する研究と教育を通じて, 人々の幸福に貢献する。

高度な研究と教育を実践し, 基幹的総合大学としての責務を持続的に果たす。

研究と教育の目標

- ◆ 真理を探究し, **世界屈指の知的成果**を産み出す
- ◆ 論理的思考力と想像力に富んだ, **勇気ある知識人**を育てる

社会的貢献の目標

- ◆ 人類の福祉, 文化の発展, **世界の産業に貢献**する
- ◆ 学術研究活動を通じて地域の発展に貢献する
- ◆ **国際的な学術連携, 留学生教育**を進める

研究教育体制の方針

- ◆ 人間性に立脚した研究体制を整備・充実する
- ◆ 高度で革新的な教育活動を推進する
- ◆ **学術文化の国際的拠点**を形成する

大学運営の方針

- ◆ 自律性と自発性に基づく探究を支援し, 学問研究の自由を保障する
- ◆ 構成員が, それぞれの立場から参画する
- ◆ 主体的な点検と評価を進め, 開かれた大学を目指す

■ 国際拠点・国際交流 ■

● 海外拠点

- ・名古屋大学上海事務所（中国）、ウズベキスタン事務所（ウズベキスタン）
- ・名古屋大学テクノロジー・パートナーシップ（米国ノースカロライナ州立大学）
- ・名古屋大学ビジネス訴訟研究所（ドイツフライブルク大学）
- ・日本法教育研究センター（ウズベキスタン、モンゴル、ベトナム、カンボジア）

● 国際学術コンソーシアム (AC21)

2002年設立 協定校19校

● 産学連携協定

- ・ノースカロライナ州立大学（米）
- ・ノースカロライナ大学チャペルヒル校（米）
- ・ウォリック大学（英）

● 外国大学等との学術交流協定締結状況

- 大学間学術交流協定 81件
- 部局間学術交流協定 189件



■ 国際化 ■

● 既存の留学生教育・交換プログラム

- ・名古屋大学短期留学生交換プログラム(NUPACE)(留学生センター)
- ・日本法教育研究センター (法学研究科:ウズベキスタン, モンゴル, ベトナム, カンボジア)
- ・ヤングリーダーズプログラム(YLP)(医学研究科:東南アジア、中央アジア、中国、東欧 1年で修士号 卒業生約10人/年)
- ・自動車コース夏期プログラム(工学研究科:2008より夏期集中講座)
- ・日独共同大学院プログラム(理学研究科とドイツミュンスター大学)

● 新しい試み

- ・国際コース(G30の一環)

○学部

文系:国際社会科学コース

理系:自動車工学、物理系、化学系、生物系の4コース

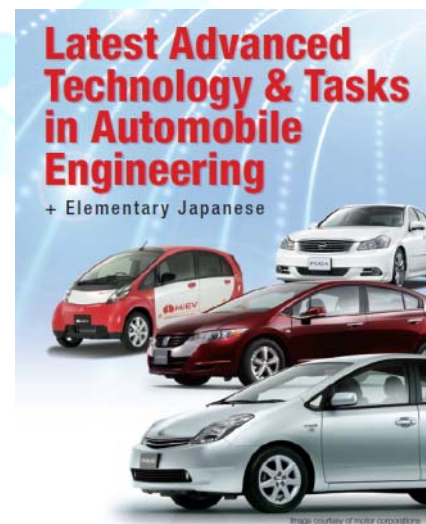
○博士課程前・後期課程

文系:経済・ビジネス国際、比較言語文化 の2コース、

理系:物理数理系、化学系、生物系、医学系の4コース

- ・関連事項:外国人教員増加、業務の国際化

- ・目標:10年で留学生数2倍



名古屋大学インターナショナルアドバイザーボード規程

（設置）

第1条 名古屋大学（以下「本学」という。）の**学術研究・教育活動について、国際的水準に照らした評価等に基づく助言を行うため**、総長の諮問機関として、本学に、名古屋大学インターナショナルアドバイザーボード（以下「アドバイザーボード」という。）を置く。

（任務）

第2条 アドバイザーボードは、総長の諮問に応じ、**本学の研究・教育の体制及び成果並びにその発信状況等についての評価**を行い、その結果を総長に答申するものとする。

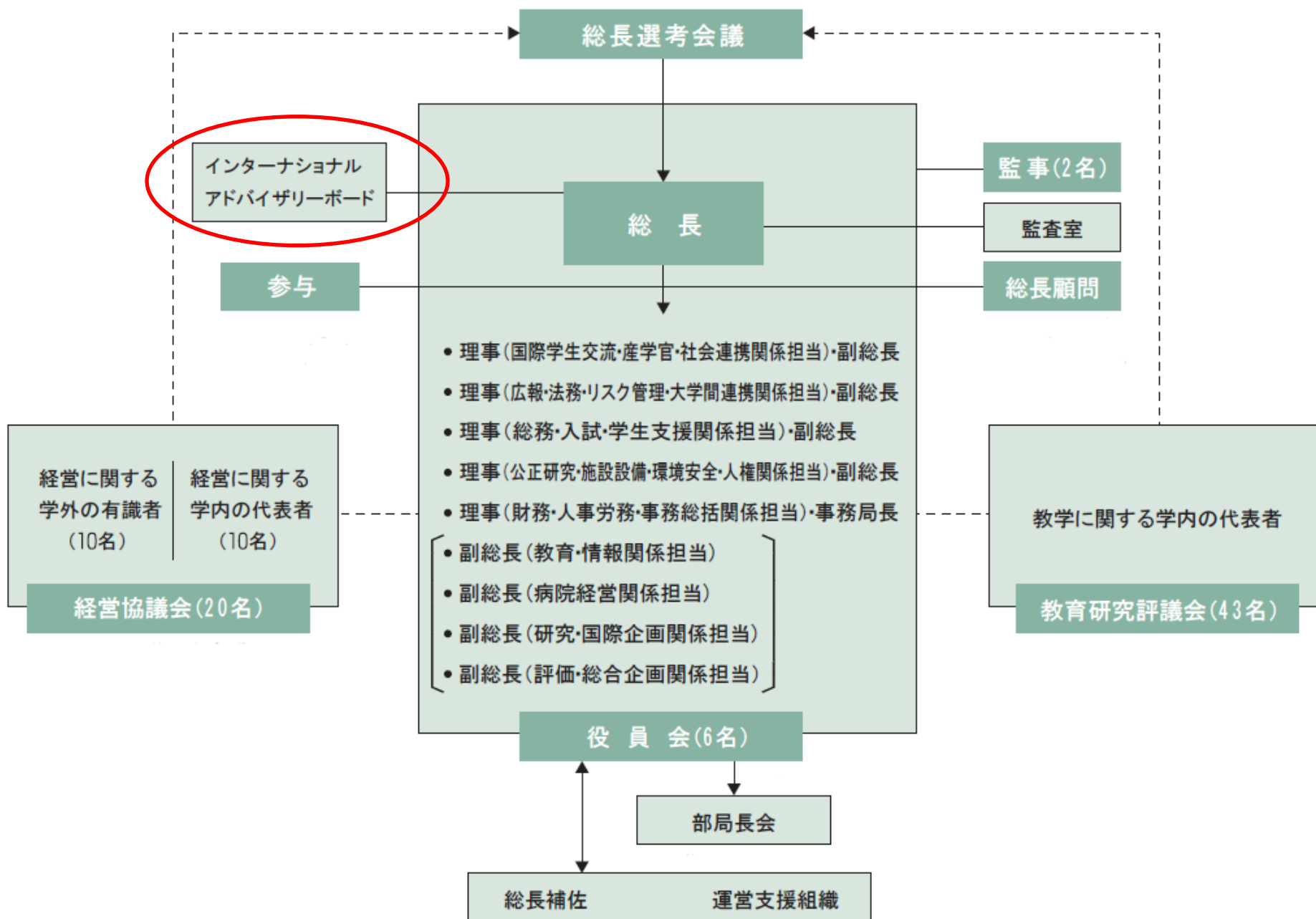
（組織）

第3条 アドバイザーボードは、若干名の委員をもって組織する。

2 アドバイザーボードの委員（以下「委員」という。）は、国内外の学識経験者のうちから総長が委嘱する。

（任期）

第4条 前条の委員の任期は、3年とする。ただし、再任を妨げない。



国際ナショナルアドバイザーボード委員(～20年度)

(独)情報・システム研究機構 理事 (前お茶の水女子大学学長)

郷 通子

カリフォルニア大学ロサンゼルス校 教授 (1998 ノーベル医学生理学賞受賞)

Louis J. IGNARRO

東京外国語大学 名誉教授 (前学長)

池端 雪浦

元台湾中央研究院 院長 (1986 ノーベル化学賞受賞)

李 遠哲

理化学研究所 理事長 名古屋大学 特別教授 (2001 ノーベル化学賞受賞)

野依 良治

フライブルク大学 法学部長 ハーバードロースクール 客員教授

Rolf STÜRNER

コレージュ・ド・フランス 副学長

Michel ZINK

氏名は、姓名のアルファベット順、漢字氏名以外はファースト・ミドル・ラストネーム順



インターナショナルアドバイザーボード 会議実施状況

第1回 平成18年2月6日－7日
高等研究院に対する評価・助言

第2回 平成18年10月5日－7日
大学院教育に関する評価・助言

第3回 平成20年10月2日－3日
助言による改善状況：
高等研究院と大学院教育

第1回 インターナショナル・アドバイザーボード

平成18年2月6日(月)

9:30 開会：平野総長

10:00 名古屋大学の概要、研究活動等の説明・質疑応答

10:45 **高等研究院の概要説明**・質疑応答

13:30 高等研究院の**研究活動の説明**・質疑応答

福井 康雄 理学研究科教授 [物理学分野]

近藤 孝男 理学研究科教授 [生命科学分野]

磯部 稔 生命農学研究科教授 [化学分野]

佐藤 彰一 文学研究科教授 [人文学・社会科学分野]

15:40 **若手研究者による研究プロジェクト提案説明**・質疑応答

山口 茂弘 理学研究科教授 [化学分野]

関 華奈子 太陽地球環境研究所助教授 [地球惑星物理学分野]

奥地 拓生 環境学研究科助手 [地球惑星科学分野]

16:50 **高等研究院に対する意見** (司会：野依議長)

18:00 終了



平成18年2月7日(火)

9:30 **高等研究院についての提言案**とりまとめ
(司会：野依議長)

11:30 閉会：平野総長・北住高等研究院長

11:40 記者会見



記者会見

◆ 高等研究院

設置目的



高等研究院は、名古屋大学が、学術憲章に基づき、世界最高水準の研究活動を推進し、卓越した研究成果をあげ、さらにそれを社会に還元するため、全国の大学に先駆けて2002年に創設された部局を超えての研究専念組織。

歴代院長



初代院長
野依 良治

平成14年4月1日～
平成15年9月30日



第2代院長
佐藤 彰一

平成15年10月1日～
平成16年2月29日



第3代院長
後藤 俊夫

平成16年3月1日～
平成17年3月31日



第4代院長
北住 炯一

平成17年4月1日～
平成19年3月31日



第5代院長
近藤 孝男

平成19年4月1日～

インターナショナル・アドバイザリーボード報告書を野依議長が提出 (平成18年7月11日)

■ 高等研究院の使命に対して、様々な観点から提言

1. 名古屋大学における特に優れた研究を認知すること。
2. 「最先端研究」及び「萌芽的研究」を支援すること。
3. 学際的交流及び国際的交流を触発、展開すること。
4. 人文、社会、自然科学並びにその工学的、医学的応用に関わる問題について独立の立場から権威ある助言を大学に行うこと。
5. 一般社会における科学の重要性の認知と理解を促進すること。



第2回 インターナショナル・アドバイザーボード

平成18年10月5日（木）

午後 **大学院生と諮問委員の交流**



平成18年10月6日（金）

9 : 20 開会挨拶

9 : 30 第1回会議の助言事項への対応・意見交換

10 : 20 高等研究院若手研究者によるプレゼンテーション

11 : 20 名古屋大学の**大学院教育の説明**・質疑応答

14 : 00 **大学院教育改革の個別事例**の紹介

16 : 30 諮問項目に対する意見交換

17 : 30 終了

平成18年10月7日（土）

9 : 30 答申案の提示及び審議

10 : 40 **答申案審議**・まとめ

11 : 30 閉会挨拶



◆ GP

大学院教育改革推進プログラム

現代的教育ニーズ取組支援プログラム

大学教育の国際化加速プログラム

新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム

大学病院連携型高度医療人養成推進事業

がんプロフェッショナル養成プラン

産学連携による実践型人材育成事業

先導的ITスペシャリスト育成推進プログラム





会議の合間に意見交換する
野依委員、平野総長、李委員

郷委員と大学院生との交流の様子
(理学研究科にて)



池端委員と大学院生との交流の様子
(国際開発研究科にて)



インターナショナル・アドバイザリーボード報告書を郷議長が提出 (平成19年6月17日)

- **大学院教育の在り方**について、様々な観点から提言
1. **明確な教育目標に基づいた大学院教育**を実施すること。
 2. **世界最高水準の教育研究拠点**を促進すること。
 3. 世界に伍して**競争力のある大学院プログラム**を作成し、維持すること。



第3回 インターナショナル・アドバイザリーボード

平成20年10月2日(木)

9 : 30 開会 : 平野総長

9 : 45 高等研究院の研究活動の現況と課題

10 : 15 **グローバルCOE採択拠点プログラムの紹介**

13 : 45 ディスカッション

14 : 45 大学院教育の現況と課題

15 : 15 **大学院・学部における教育プログラム
の魅力と課題 (6組 : 90分)**

17 : 00 ディスカッション

17 : 40 記念写真

★平成20年10月3日

IAB関連企画 : 名古屋大学IABレクチャー



IAB 委員と本学役員ら

大学院教育の現状と課題

- ・人文学フィールドワーカー養成プログラム(文学研究科)
- ・流動型大学院システム(工学研究科)
- ・日本法教育研究センター(法学研究科)
- ・海外臨床研修の実施(医学研究科)
- ・名古屋大学短期留学生交換プログラム(留学生センター)
- ・日独共同大学院プログラム(物質科学国際研究センター)

グローバルCOE

分野	拠点のプログラム名称	拠点リーダー
学際・複合・新領域	地球学から基礎・臨床環境学への展開	地球水循環研究センター 安成哲三教授
医学系	機能分子医学への神経疾患・腫瘍の融合拠点	大学院医学系研究科 祖父江元教授
数学・物理学・地球科学	宇宙基礎原理の探求 - 素粒子から太陽系, 宇宙に至る包括的理解 -	大学院理学研究科 杉山直教授
機械・土木・建築・その他工学	マイクロ・ナノメカトロニクス教育研究拠点	大学院工学研究科 福田敏男教授
生命科学	システム生命科学の展開: 生命機能の設計	大学院理学研究科 近藤孝男教授
化学・材料科学	分子性機能物質科学の国際教育研究拠点形成	物質科学国際研究センター 渡辺芳人教授
人文科学	テキスト布置の解釈学的研究と教育	大学院文学研究科 佐藤彰一教授



プレゼンテーションを聴講する委員ら（左から郷委員、池端委員、李委員）



活発な議論を交わす委員ら（左から野依委員、シュトゥルナー委員、ザンク委員）



グローバル COE 採択研究プログラムの現況を報告する祖父江教授



教育プログラムの経験を発表する野坂医師

平成21年度高等研究院の構成

○アカデミー会員 7名

○研究プロジェクト代表教員

タイプ1:世界最高水準プロジェクト研究 5名

タイプ2:萌芽的・独創的な若手プロジェクト研究 4名

○高等研究院若手育成特別プログラム
(テニュアトラック教員)

特任准教授・特任講師 15名

○院友

元院長・副院長、元高等研究院教員、元運営推進委員
(計56名)

◆ 高等研究院

世界最高水準の知の創出

社会への成果の発信

若手研究者の支援



高等研究院アカデミー会員（五十音順）



赤崎 勇
平成21年
京都賞



飯島 澄男
平成21年
文化勲章



小林 誠
平成20年
ノーベル物理学賞



佐藤 彰一
平成14年
日本学士院賞



下村 脩
平成20年
ノーベル化学賞



野依 良治
平成13年
ノーベル化学賞



益川 敏英
平成20年
ノーベル物理学賞

「名古屋大学」から “Nagoya University” へ



ご静聴 ありがとうございます